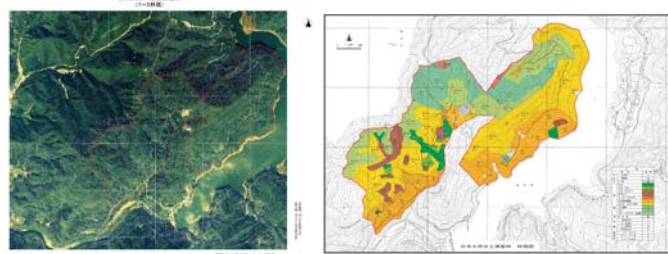


水上演習林

演習林の位置



水上演習林は、上越国境を代表する谷川岳の東に位置し、高平山（標高985m）を中心にその山腹に広がっています。



植生は落葉広葉樹林が主体ですが、暖温帯気候にも近く、その中間温帯林のコナラ・クリと、冷温帯を代表するブナ・ミズナラが混在して出現しています。このような特殊環境下に位置することから、森林生態学上興味深く貴重な演習林といえます。



演習林水上実習所は宿泊施設として利用されています。講義室もあり屋内での作業も行えます。実習所では食事が出るほか、お風呂は温泉となっており疲れた体を癒すこともできます。

演習林の概要

- 面積：158 ha
- 標高：650～985 m
- 地形：地形は変化に富んでいて、地勢は急峻です。
- 土壌：褐色森林土Bが大部分を占めています。
- 気候：年平均気温10℃程度、年降水量は1600 mm。日本海側の気候の様相を呈し、夏季には良く晴れますが、雷雨の発生しやすい地域です。

水上演習林では野生動物生態調査、CO₂循環などの地球環境の観測、昆虫の分布・分類やブナ原生林の保護の研究が行われています。また、造林学実習、森林動物学実習、基礎測量学実習、森林計測学実習、冬期森林実習などの実習が本演習林を利用して実施されており、学科で積極的に活用されています。



演習林に多く見られる樹種



スギ

(*Cryptomeria japonica*)

本州、四国、九州の主に太平洋側に多く分布する常緑高木。材は建築のみならずきわめて用途が広く、古くから各地で植林されています。演習林では30～50年生のスギ人工林が多く見られます。



カラマツ

(*Larix kaempferi*)

針葉樹の中では数少ない落葉樹のひとつで、初夏には鮮やかな新緑、秋には美しい黄葉を見ることができます。演習林ではスギと同様、30～50年生の人工林を見ることができます。



ブナ

(*Fagus crenata*)

冷温帯樹種であるブナは、空中湿度の高い土壌の肥沃なところを好みます。樹皮は平滑で、白はんがあり灰白色です。また、太平洋側と日本海側で積雪の影響によって樹形・葉の大きさ・構成樹種に違いがあります。



コナラ

(*Quercus serrata*)

コナラはクヌギとともに関東地方の雑木林を代表する樹木です。ミズナラは、ナラ材と総称されるコナラ属の材のうち、もっとも優れていると言われています。どちらも秋には堅果（ドングリ）がなります。

ミズナラ

(*Quercus crispula*)

ギャラリー



▲演習林より藤原湖を望む



▲雨上がりに見えた虹（2005年9月撮影）



▲冬期森林実習でカモシカに遭遇（2008/2/9撮影）



▲演習林から見た谷川岳